

小学校

～各校のICT活用に係る現状及び課題～

現 状	<ul style="list-style-type: none"> 一人1台のタブレット端末の操作に慣れ、授業で活用できるようになった。ログインなど基本的な操作で戸惑う児童はほとんどいない。 ミライシードやMicrosoft Teamsを活用して、考えを共有することができている。発言することに自信がもてない児童の考えも全体に反映できる。 Microsoft Forms等を活用することにより、教員や児童等に対して実施するアンケートの集計が短時間でできるようになった。 Microsoft Teams等を活用することにより、オンラインで情報共有ができるようになった。また、資料もPDFで保存することで、ペーパーレス化の推進にもつながっている。 学習時に日常的にICT機器を活用して授業を行うことができている。(ドリルパークによる習熟、ミライシードやteamsによる情報共有、写真機能の活用等) 校内における使用上のルールを全体で十分に共有したことでiPadを学習用として正しく活用することがおおむねできている。 (児童)学年に応じた基本的なICTスキルは身に付けている。 (教員)大型モニターにデジタル教科書や拡大投影機の映像を写しだし、授業に活用する事はほとんどの教員ができている。 ICT機器を活用した教師による指導、及びタブレットを活用した児童の学習が、日常的に行われている。 教員によるICT活用への意識の違いや、ICT機器による活用頻度の違いがある。 教員による温度差解消に向け、支援員による研修を計画的に行い、教員の指導スキル向上を図っている。 教員によって活用の差が大きい。 提示と共有以外の使い方から広がっていない。 国語や算数を中心にドリルパークに取り組んでいる。 理科や生活科の観察や実験のときに、児童がタブレットで写真を撮っている。 社会科や総合的な学習の時間で、児童がインターネットを使い、課題について調べている。 体育科では、児童が試技の動画を撮ったり、図画工作科では児童が自分の作品の写真撮って学級内で共有したりしている。 大型モニターを使い、教科書のページを拡大して児童に提示している。 音楽科では、ムーブノートで児童の意見を共有をしたり、児童のタブレットに動画を送って鑑賞したりしている。 欠席連絡や保護者への一斉メールとしてtetoruを活用している。 児童へのアンケート等、Formsを活用している。 OJT等の資料を、Teamsで共有している。 児童の関心意欲を高めたり理解の支援として教員が使って提示したり、デジタル教科書(主に算数、外国語活動)を活用したりしている。 調べ学習(資料検索)やまとめの学習での活用。プレゼンテーション等のまとめは、本校はパワーポイントを使っている。 児童はノートと併用。書いたものや見つけたものを撮影し、それを基に直接話しながら意見交流している。 委員会活動での活用(意見交換や全校児童へのアンケート、分担の確認、資料準備など) ミライシードのドリル機能は、苦手な問題につまづき繰り返して出てくることに辛くなり、意欲が低下する児童も見られる。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の活用には依然として差がある。ICTの活用が苦手な教員は児童より操作に慣れておらず、指導に自信がもてない様子である。また、ICTの活用が苦手な教員ほどICTを活用することのメリットが感じられない様子である。 貸与している端末やキーボードが経年劣化しており、故障対応も混雑していて、故障した端末やキーボードをそのまま使用していることがある。 一人1台のタブレット端末は学習に活用することを前提に貸与しているが、学習に関係のない内容で利用している姿が見られる。学校ではその都度指導し、改善を図っているが、家庭での指導は家庭間で差がある。 児童用の学習用iPadを家庭で充電してくるように声掛けをしているが、充電を忘れてしまう児童が一定数いる。教室内で充電ができるようになるとよい。 教員が使うためのiPadが教員数分布されるとよい。(時間講師等も含め) ネット環境が不安定になることがあり、学習活動に支障がでてしまったことがあった。 (児童)身に付けているICTスキルの個人差が大きい。好きな児童は家庭等でも様々な活用をしている。パワーポイントでプレゼン資料を簡単に作れる児童もおり、活動にかかる時間に差が出てくることもある。 (教員)オクリンク等、相互のやりとりをするような機能を授業で活用しきれない教員がいる。OJTで使用方法は共有しているが、活用にまでは至っていない。 (教員)各学年で指導するICT取組一覧表があるが、意識して指導する教員が少ない。 指導や学習場面において、学びを深めるためのICT機器の効果的な活用が課題である。 新しいデジタル教科書が使える環境を整え、児童がデジタル教科書を有効に活用することが課題である。 タイピング等児童のタブレット活用スキルを段階的・系統的に向上させ、中学校でのICT活用につなげる。 教員間の使用格差の改善(ICTは、新しいこと、難しいことと捉えている教員が未だにおり、紙と鉛筆での学習を支える有効なツールであることに気が付けていない。) ICTを活用した教材の作成能力の向上(教科書にある二次元コードを積極的に活用する。中には、自分で苦労して作成した教材が効率よくまとめられているものもある。) 教員のICTの活用技能の向上(有効に活用するにはどのように使ってよいかICTの技術が伴わない教員がいる。) 一部の児童でタブレットのルールの徹底が図れていない。 教員の活用状況が個人によって差がある。 ICT活用を充実させるための研修が少ない。 児童の情報源がYouTubeに偏りがちであり、休み時間や家庭での使用、中には授業中作業の際にも開きたがる児童もいる。(昨年度末より再度校内で統一して指導し、落ち着いてきている) 個別最適な学びを支えるツールとして、活用しきれていない。 苦手な児童にとっては、苦手なものが増えた。 ICTを活用する基となる基礎・基本(語彙力、読み解き力、文章力など)の定着。 教員のICT活用力(どのように使えるかをイメージできる力とそれを形にする力)と児童に付けたい力の優先順位が活用頻度に影響する。